

いなばしゅごやまなし ふ せてんじんやまじょう
因幡守護山名氏と布施天神山城とは

20190625

1 因幡守護山名氏とは

- 守護とは
 - ・室町幕府から任命されて国を支配した役人。現在の県知事。

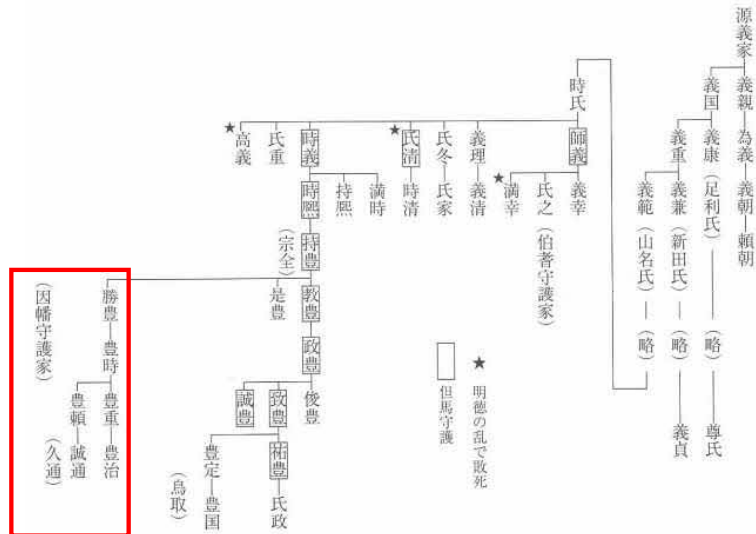
- 山名氏とは
 - ・群馬県高崎市（山名郷）の武士。室町幕府につかえて活躍。
 - ・全国6ヶ国のうち、11ヶ国の守護を務め、「六分一衆」と呼ばれた。

2 布施天神山城とは

- 因幡の守護所
 - ・守護所・守護の屋敷。町や港の近くに置かれた政治中心地で、現在の県庁。
→布勢（宇山）の町が栄えていたので、岩美町二上山城から移ったと言われる。
 - ・館+城

- 室町時代の湖山池
 - ・湖山池の北側の一部が海に開け、日本海から船が入り出る良い港であった。

- 湖山池の東側に町が繁栄
 - ・布勢（宇山）の周辺にお寺（現在は無い）、神社（日吉神社）があり、商人や神社の神主、お寺のお坊さんらが移り住みその前に市場や町がつけられた。



1 山名氏系図 (出石町史などを参考に作成)

山名氏一門は、時氏時代から受け継がれた丹波・丹後・因幡・伯耆・美作の山陽・山陰道各国に加え、師義が得た但馬、南朝攻めの功により得た紀伊・和泉、細川氏の失脚により得た出雲・隠岐、さらには都がある山城の合計十一カ国の守護を務めた。山名氏は幕府降参後も、南北朝の対立という不安定な政治状況を巧みに利用して、その勢力を拡大し、幕府最大の勢力を築いた。

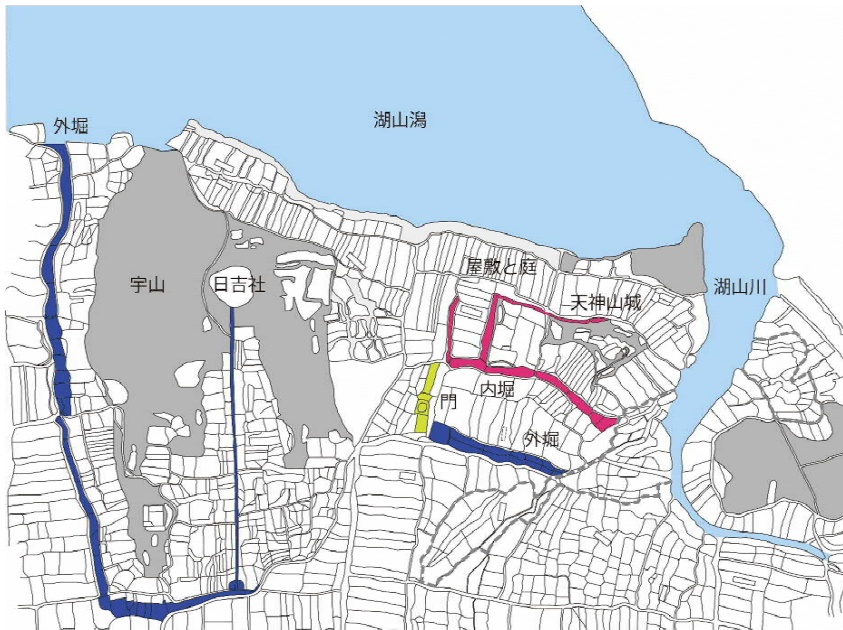


『戦国時代の守護 山名氏の城と戦い』から引用

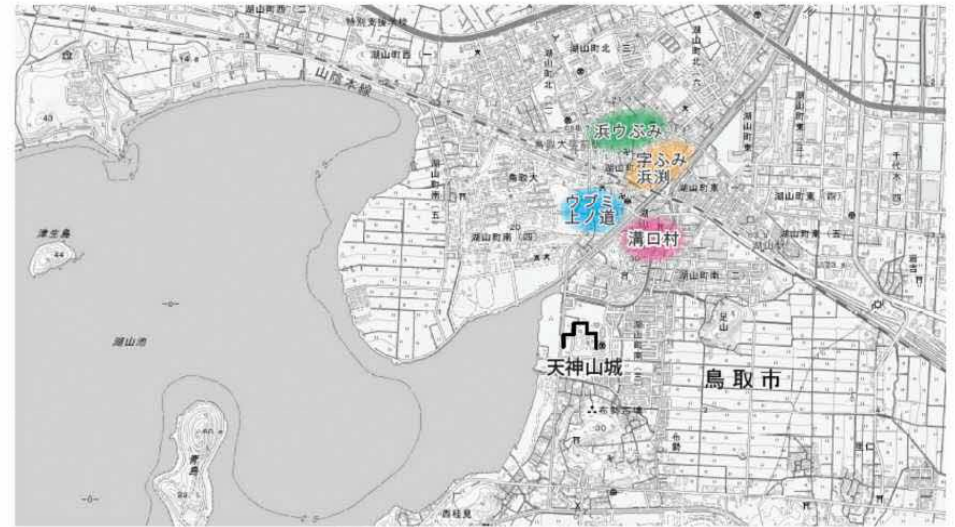


95 『因幡民談記』に描かれた布施天神山城 鳥取県立博物館蔵 写真提供：鳥取県立博物館
 後世の絵図であるため天守閣など実在しないものも描かれるが、「町屋」「侍町」などの記載があり、城下の様子を知る上で貴重な資料である。

『戦国時代の守護 山名氏の城と戦い』から引用



江戸時代の絵図をもとに復元した天神山城の周り



天神山城 合戦イベント関連図



天神山城と鳥取城の対峙



47年前の天神山城とその周辺の空中写真